

放射性物質試験の最新成果情報

～ ユズの放射性セシウム対策 ～

- 1 カリ資材の散水処理による葉中放射性セシウムの除去
- 2 カリ肥料の施肥について
- 3 春期の間引きせん定の影響について

福島県農林水産部

農業総合センター果樹研究所における、ユズの放射性セシウム対策試験の結果等から有効と考えられる技術対策をまとめましたので、ご活用ください。

1 カリ資材の散水処理による葉中放射性セシウムの除去

ユズ樹全体に液体ケイ酸カリ肥料を1回散水処理し、その5～7日後に散水処理を1回以上実施すると、無処理の樹に比較して、60%以下のレベルまで放射性セシウムを除去・低減する効果が期待できます（図1）。

この効果は、リーチング現象（※）による影響と考えられます。

今回の試験では、同じ方法で1回目、2回目ともに水のみで処理を行っても同程度の効果が期待できるデータが得られていますが（図1）、1回目と2回目の処理間隔が開いた場合や気象条件、汚染状況次第では1回目に液体ケイ酸カリ肥料を使用した方が安定的な効果が得られると考えられます。

※リーチング現象とは

雨、霧や水溶液によりクチクラ層（水分の蒸発防止や内部の保護のため表皮の上にあるろう状の物質）が破壊され、葉の表面から葉内成分が流亡する現象です。

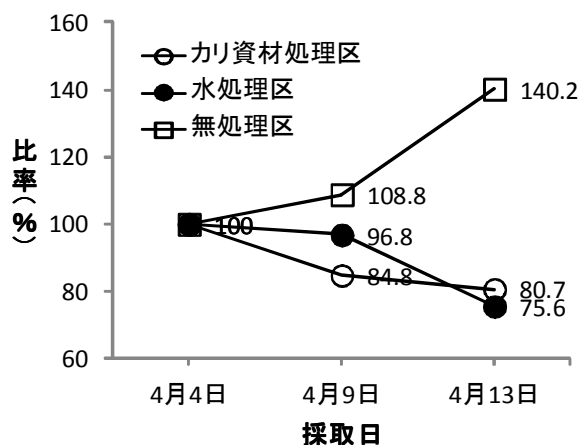


図1 ユズ葉中放射性セシウム濃度の処理前濃度に対する比率の推移

※ 4月4日に葉を採取後1回目処理(カリ資材及び水)、4月9日に2回目処理(水)



図2 散水処理の様子

＜ 処 理 方 法 ＞

- ユズの成木1樹当たり、液体ケイ酸カリ肥料1,000倍液を50～100L使用し、葉裏がまんべんなく濡れるよう動力噴霧器等でたっぷり噴射し散水処理を行います(図2)。
- 液体ケイ酸カリ肥料の処理5～7日後に、同様に水で散水処理を行います。
- 散水処理は、葉に付いた水分が乾きにくい曇天日を選んで実施します(散布翌日に降雨が予想される日が望ましい。晴天日は極力避ける)。
- 処理は、5月上旬頃までに終了するようにしてください。なお、開花期までの追加処理も有効と見込まれます。

2 カリ肥料の施肥について

放射性セシウムを固定しにくい砂質土壌等のユズ園や、十分な施肥管理が行われていないユズ園では、カリ肥料を成分で20kg/10a程度(ユズにおける標準的な年間施用量)を目安に施肥してください。

施肥は、養水分の吸収と樹体内での移動が活発になる5月上旬頃までに実施してください。

3 春期の間引きせん定の影響について

カリ資材の散水処理による葉中放射性セシウムの除去試験において、無処理区の葉中放射性セシウム濃度が時間の経過とともに上昇する現象が確認されました(図1)。

この要因として、放射性セシウムの葉中濃度の測定のために大量の枝葉を間引きにより採取しましたが、樹体内で養水分の移動が活発になる春期に間引きをすることで、すでに葉から吸収され樹体内に存在している放射性セシウムが、残された枝葉へ移行して高まった可能性が考えられました。

従って、常緑果樹のユズでは(※)、果実への放射性セシウムの移行を極力抑えるためには、春期に枝の間引きを実施しない方が良いと考えられました。

※ 落葉果樹の樹体の放射性セシウムの分布は、樹体表面への付着が中心であると考えられることから、間引きせん定の影響は考えなくても良いと思われま

問い合わせ先：農林水産業に関する相談窓口(電話：024-521-7319)

ホームページ：農林水産部農業振興課ホームページ(PDF形式ファイル)

URL http://www.pref.fukushima.jp/keieishien/kenkyukaihatu/gi_jyutsufukyu/seiikugi_jyutsujyohou.html

(他の農業技術情報等をご覧ください)

モバイル県庁：福島モバイル県庁→お知らせ・各種情報→農業技術情報

(右欄に掲載のQRコードよりご覧ください)

ふくしま新発売：以下のホームページより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>



モバイル版 QRコード